

《研究概要②》

和歌山市における幹線公共交通網の再構築とまちづくりに関する研究

研究会主査 辻本 勝久
和歌山大学経済学部教授

【テーマの概要】

和歌山市では、移動における過度の自動車依存と都市の拡散が同時に進行し、環境（地球温暖化ガスの排出等）・社会（交通事故、健康問題、広大な公共交通不便地域の存在等）・経済（中心市街地の衰退等）の各面において、自動車依存シンドロームとも言うべき様々な問題が生じている。

国内外の数多くの都市も同様の問題を抱えてきたが、富山市、ストラスブール（仏）、フライブルク（独）などでは「交通まちづくり」が実施され、成果を挙げている。交通まちづくりとは、「まちづくりの目標に貢献する交通計画を、計画立案し、施策展開し、点検・評価し、見直し・改善して、繰り返し実施していくプロセス」（交通まちづくり研究会編著『交通まちづくり』p.2）である。先進都市では、まちづくりの目標を明確に示した上で、その実現に向け、既存鉄軌道の活性化や LRT（次世代型路面電車）・BRT（快速バスシステム）の導入などによる公共交通幹線の充実や、バスネットワークの再編、交通のバリアフリー化、IC カードや情報提供システムの導入、パーク・アンド・ライドの整備、自転車レーンや都市型レンタサイクルの導入、中心市街地の自動車抑制といった具体的な交通施策がパッケージで展開されている。和歌山市でも、民産官学が連携して戦略的に交通まちづくり施策を展開し、PDCA サイクルのもとで継続的に改善しながら、あるべきまちの実現を目指すことが求められる。

和歌山市においてはこれまで、地方鉄道活性化の全国的モデル事例となった貴志川線活性化をはじめ、いくつかの取り組みがなされ、交通まちづくりへの理解と期待が高まってきた。また、平成 22 年に市長が「道路・公共交通網の充実」や「メリハリのあるまちづくり」を公約に掲げて当選し、平成 23 年度には和歌山市地域公共交通会議の設置が実現するなど、交通まちづくりの本格的推進に向けた条件が整いつつある。

このような中、本部会では、和歌山市のまちづくりのあり方を確認した上で、幹線公共交通網の再構築に焦点を絞り、その意義について環境・社会・経済の 3 つの視点から定量的・定性的に調査研究を行う。国内外の地方中核都市における交通まちづくりの事例に関する情報収集も積極的に実施する。幹線公共交通網再構築の実現可能性や実現までのプロセス等についても検討するが、その際には、「〇〇だからできない」という発想ではなく、「こうありたいから〇〇を変えよう」という発想を重視したい。

【メンバー】

代表	辻本 勝久	和歌山大学経済学部	教授
	藤田 和史	和歌山大学経済学部	講師
	山本 敦子	和歌山大学経済学部	助教
	関本 禎孝	和歌山商工会議所	企画・街づくり支援室室長補佐
	中谷恵理子	和歌山商工会議所	企画・街づくり支援室主事
	木下 雅夫	(財)和歌山社会経済研究所	常務理事・事務局長
	畑山 善生	(財)和歌山社会経済研究所	研究部長
	中山 健太	(財)和歌山社会経済研究所	研究部長
	中平 匡俊	(財)和歌山社会経済研究所	主任研究員
	松村 光一郎	(財)和歌山社会経済研究所	主任研究員

なお、本研究会には、和歌山大学大学院経済学研究科・経済学部生数名のオブザーバー参加を予定している。